

中学校区におけるめざす子ども像 将来をみすえ、自ら学習できる子	堺市立 福田 小学校 校長 嶺村 芳
------------------------------------	-----------------------

令和7年度 重点目標
 学校教育目標である「自らを大切にするとともに、周りの人々も大切にできる福田っ子を育成する」ことを教職員が常に意識し、「〇よく考える子 〇みんなと助け合う子 〇明るく元気な子 〇やさしく思いやりのある子」育成に向けた、令和7年度の重点目標を「主体的な学びの創造・チャレンジ&チェンジ」サブテーマ「～主体的に学ぶスタイルの探求～」とした。実現を図るため、学びのコンパスに基づき主体的・協働的な学びの充実をめざす。人権尊重を基盤とした教育活動の展開と、組織的な生徒指導体制の構築を促進する。東中校区における育てたい18歳の成人像を泉ヶ丘東中学校・福田小学校・東陶器小学校・西陶器小学校で共有し、幼小中接続事業を継続深化する。そのため公立私立を問わずこども園・幼稚園・保育園等との日常的な交流もすすめる。

「確かな学びの現状」 ・国語、算数、理科等の各種学力調査の結果を目標値との比較から分析した結果から概観すると、知識・技能や思考判断表現について一定の課題がある。 ・思考判断表現よりも、知識・技能について課題が大きい結果となっており、学びに向かう力を引き出し、基礎基本の反復練習に耐える自信や粘り強さ、家庭とも連携した家庭学習も含めた学習習慣のテコ入れが必要である。 ・学びのコンパスや堺版授業スタンダードを基本としながら、基礎基本の確実な定着に向けた丁寧な取り組みを家庭との連携をもとに進める。	豊かな心・健やかな体の現状 ・各種学習生活状況調査の結果を平均値等との比較から分析した結果から概観すると、学びに向かう力や規律ある態度について一定の課題がある。 ・総合的な学力育成や心身両面での健全育成に不可欠である、社会性や生活感豊かな地域教材や地域協働の基盤には恵まれている。 ・引き続き、郷土を知り、郷土で育ち、郷土に誇りをもてる子どもの育成に努めたい。 ・普段の子どもたちの生活の様子を見ていると、挨拶ができたり時間や気持ちの切り替えが見られたりすることもあり、自信や自己肯定感を引き出す指導を教職員ができるよう、教職員の心のゆとりづくりや、授業づくりの時間確保が重要である。
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	主担	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)			
									自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	基礎・基本の定着	読む・書く・計算する力を継続的に育成する。	朝読書(水)や図書室活動、並行読書、家庭読書等の取り組みで読書量を増やす。	「毎日読書30分以上」50%以上 「家で週3日以上読書する」55%以上	学校アンケート	年度末	澤近 ◎	児童の読書量を増やすために、図書委員による読み聞かせや読書ビンゴ、先生方のおすすめ本の紹介など、読書に親しめる取り組みを進めた。	△	家庭での読書習慣について肯定的な回答をした児童は35.8%であった。「週3日・30分以上」という数値目標に対しては厳しい結果となっている。今後の取り組みとして、ブックトークや推薦図書の紹介などを行い、まずは「短い時間でも本を開く」ことから全体の底上げを図りたいと考える。	△	・基本的な読み書き計算の着実な定着を、家庭とも連携しながらすべての子どもたちに粘り強く取り組んでいきたい。 ・授業研究や読書活動に工夫するなど、活用応用の問題にも対応できる力の育成にも引き続き取り組んでいきたい。
			読書活動や自主学習、セット宿題等、家庭学習の充実で学習習慣の定着を図る。 ★自主学習ノートの活用	「毎日宿題をする」が90%以上 自主学習ノート80%以上	学校アンケート	年度末	清水 ○	国語や算数の学習の宿題、読書や自主学習など、家庭学習を設定し、学習習慣の定着を図っている。	△	毎日宿題やならったことを復習している児童は、71パーセント、自分の興味のある自主学習に取り組んでいる児童は、78パーセントだった。宿題や自主学習に取り組むのが難しい児童を分析するとともに、自ら進んで取り組みやすい手立てを考えていきたい。また、家庭との連携も大切にしていきたい。	○	・学業研究や読書活動に工夫するなど、活用応用の問題にも引き続き取り組んでいきたい。
			学校での朝学習(火・木・金)で漢字や計算などを繰り返し行い基礎学力の向上を行う。	定着テストの知・技の正答率が国語80%以上算数80%以上	定着テスト 学力テスト すくすくテスト	年度末	清水 ○	学校での朝学習に取り組み、漢字や計算などを繰り返し行い、基礎学力の定着に取り組んでいる。	○	半数の学年は、80パーセント以上を達成していたが、残り半数の学年は、75パーセント以上80パーセント未満だった。基礎学力を向上させるために、学校全体で子どもたち同士を教え合い、朝学習などの取り組みを考えていきたい。	○	
確かな学び	授業改善・指導力の向上	思考力・判断力・表現力を育成する。	●全学年が研究授業を行い、全教職員で参観・事後検討会をすることで、授業力改善に努める。	研究授業・授業参観	実践報告	年度末	教頭 ◎	全学年による研究授業は計画的に行われており、事後検討会も授業改善に向け、積極的な意見交換がなされている。	◎	各学年による研究授業以外にも、先生方の自主的な研修会、幼小連携の公開授業など、積極的に研修を積んでいる。事後検討会も、自分事としてとらえ、活発な話し合いもなされている。	◎	・スマホやタブレットなどICT機器の普及で、子どもたちだけでなく大人の我々も、自分の考えをわかりやすくまとめて書く必要感が薄れている。幅広い学力の視点で着実に取り組んでいただきたい。
			自分の考えを書いたり伝えたりする場面を多く取り入れ、学習過程がわかるノートづくりに取り組む。	アンケート項目「授業ではノートに自分の考えを書く活動がある」で肯定評価80%以上	アンケート	年度末	山口 ◎	授業で、自分の考えを書いたり、伝えたりする場面を多くつくり、学習過程がわかるノートづくりに取り組んでいる。	△	肯定的な意見は75%に留まった。「あまり…」と否定的な意見が18%となっていたので、そこを引き上げられるような授業の展開や普段から自ら取り組む姿勢を育む必要性を感じた。	△	
			学びのコンパス・堺版授業スタンダードに基づき、子どもがよく考え、わかる授業を展開する。	学校の単元テストの思・判・表の正答率が国語73%以上算数73%以上	単元テスト 学力テスト すくすくテスト 等	年度末	山口 ○	学びのコンパス・堺版授業スタンダードに基づき、子どもがよく考え、わかる授業を意識している。	○	国語の思・判・表の正答率が82.7%と大きくのびた。一方、算数は69.5%と下回る結果となった。	○	
豊かな心・健やかな体	心の教育	教育活動全体を通じ人権教育を推進するとともに、自他の尊重と自尊感情を高める。	・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動に取り組む。 ・自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む。 ・総合的な学習の時間や自主学習などでは、自分の興味・関心から学習の内容を自分で考える場を設定する。 ・学習したことを普段の生活で使う場面がないか考えられるようにする。	・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動に取り組んでいる。(学テ43番) ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(学テ45番) ・総合的な学習の時間や自主学習などでは、自分のきょう味・関心から学習の内ようを自分で考えている。(CBT22番) ・学習したことを普段の生活で使う場面がないか考えている。(CBT25番)	CBT・学テ及び学校アンケート	年度末	山口 ◎	各教科の授業や総合的な学習の時間を通して子どもたちが主体的に活動できるように、単元・授業づくりに取り組んでいる。	○	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動に取り組んでいる。」「総合的な学習の時間や自主学習などでは、自分の興味・関心から学習の内容を自分で考えている。」「項目では、肯定率が80%を超えていました。しかし、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」「学習したことを普段の生活で使う場面がないか考えている。」「では、70%ほどで、情報の整理分析、学習内容を普段の生活にいかす面での課題があった。」	○	・自分だけでなく仲間を大切にしている気持ちや、発達段階によっては規律の大切さを理解している子どもの姿も頼もしく感じました。
			自尊感情や規範意識を醸成し、児童が安心できる学びの場をつくる。	あのねアンケートを用いていじめの早期発見に努める。	実践報告	毎学期	井野 ◎	いじめアンケートとシステムを併用し、いじめの早期発見と情報共有に努めている。	◎	いじめアンケートとシステムの活用によりいじめの早期発見と情報共有を進めることができた。早期発見とチームによる迅速かつ丁寧な対応でいじめ案件の書亦書理化を促すことができた。	◎	・見守りボランティアや青パト活動において、登下校の様子を見ていると、落ち着いた交通安全や元気な挨拶の成長を感じる。
			あいさつ・もくもく清掃他(「はあともみじ」)の推進	生活目標ふりかえりアンケート各項目で肯定評価80%以上	アンケート	年度末	井野 ◎	児童会による挨拶運動を続け、月毎の生活目標で意識付けとふり返しを行っている。	△	児童会による挨拶運動を続け、月毎の生活目標で意識付けとふり返しを行っている。	△	児童会による挨拶運動を続け、月毎の生活目標で意識付けとふり返しを行っている。
豊かな心・健やかな体	体力向上	心身ともに健全な子どもの育成 (生活に根ざす体力づくり・体力向上)	教科書や「未来をひらく」を効果的・計画的に活用する中で道徳教育を充実させ、児童の道徳的判断力の発達を図る。	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」の肯定評価90%以上	学校アンケート	年度末	澤近 ◎	児童の道徳的判断力を育てるために、道徳の資料を全職員に共有して授業を進めやすい環境を整えるとともに、道徳研究大会に全員で参加して道徳科の授業づくりに関する指導力の向上を図った。	◎	児童の道徳的判断力を育てるために、道徳の資料を全職員に共有して授業を進めやすい環境を整えるとともに、道徳研究大会に全員で参加して道徳科の授業づくりに関する指導力の向上を図った。	◎	
			人権教育・特別支援教育の充実を図り、やさしく思いやりのある子を育てる。	人権にかかわる項目で肯定評価85%以上	アンケート	年度末	入江 ○	平和学習やにげんげん学習交流会などの大きな行事が終了し、人権の問題を考えることができた。	△	人権にかかわる項目「命やルールの大切さについて考えたりすることがある。」「で肯定評価83%で目標達成できなかったが、「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う。」「で肯定評価85%以上を達成することができた。	△	
			体育大会、体育授業、体育大会でのダンス(表現運動)、福田体力アップチャレンジ(業間にもすもう、かけあし、なわとび等)に取り組む。年間を通じて体力づくりに取り組む。体力低下が懸念されるので、一人ひとりの児童が外遊びをする機会を設けるよう、学級で取り組みを行う。教員の体育授業力向上のための体育研修を行う。	アンケート項目「運動をすることや、体育の授業は好きですか。」「で肯定評価82%以上	アンケート	年度末	村上 ◎	学校授業・行事に加え、体育委員会が考案した体力づくりや向上などを通じて、一人一人の体力向上に努めている。	◎	「運動をすることや体育の授業は好きだ」のアンケート項目において、89.4%が肯定評価となり目標値を上回ることができた。また、新体力テストでは、多くの項目において堺市平均を上回った。体育行事や福田体力アップチャレンジ、体育委員会の体力向上企画の成果と言える。	◎	・学校教育活動での体力向上の取り組みにあわせ、家庭や地域でもどのような工夫ができるか考えていきたい。
地域協働	こ期待と信頼を学校に	学校情報を積極的に発信し、地域の学校として地域の力を借りながら教育活動を進める。	学校の様子を積極的に情報を発信(ホームページ・校報・学年通信など)する。	「学校は地域に情報発信を行っている」で肯定評価90%以上	アンケート	年度末	馬場 ◎	行事・授業風景などをホームページで毎日発信している。	◎	行事・授業風景などをホームページで毎日発信することで、学校の様子がわかると90%以上の肯定的な意見を達成することができた。	◎	・日々の子どもたちの活躍や学校の様子がホームページで発信されている取り組みは素晴らしい。 ・地域協働や幼小中接続事業も引き続き取り組んでいただきたい。
			児童と地域とのつながりの場をつくり、地域との連携を図る。	学校が保護者・地域との連携をとるための活動	実践報告	年度末	馬場 ◎	七夕会やだんじりや福刈りや相模大会などの授業で児童と地域とのつながりの場をつくり地域と連携をはかることができた。	◎	七夕会、だんじり、認知症キッズサポーター米作りなど地域とつながる授業づくりがほとどの学年も実行することができた。	◎	
			★幼小接続「東中校区幼小接続事業」★学校群・小中連携の推進	幼小中の取り組み	実践報告	年度末	中村 ◎	東中校区にあるすべての学校・園が出そろって、職員全体で合同研修に取り組めた。	◎	街全体が本気で動く体制の土台が築けた。	◎	

校長より(年度末)
 ・教科の学力では、基礎基本の定着に比べ活用の力に課題が残った。幅広い知識理解や思考判断表現など基礎基本の定着をすすめ、学びの基礎力や社会的実践力が着実に身につく、ふりかえりなどの表現活動や、カリキュラムマネジメントを生かしたプロジェクト型の探究活動について「学びのコンパス」の視点で取り組んでいきたい。
 ・子ども・保護者を対象とした学校アンケートのクロス集計では、学習理解と思考判断表現の書く活動や読書活動の強い相関が確認できた。読書活動と表現の工夫をしたい。
 ・福田小学校の強みである、地域協働の取り組みや伝統について、引き続き継続していけるようカリキュラムマネジメントを進めていきたい。

学校関係者評価者から(年度末)
 一年間の取り組みありがとうございました。登下校の見守りや青パトの活動で子どもたちの姿を見ていると、あいさつや交通安全など落ち着いた様子を感じています。以前に比べクラクションの音も減り静かになってきたように思います。分析で明らかになった、学校行事のような大きなプロジェクトを大切に教育活動や、運動や読書を意欲的に取り組める活動を各学年の成長に合わせて工夫して取り組んでいただきたい。家庭や地域も持続可能な協力・支援のあり方を考えながら、これからも協力を進めていきたい。